

本化するのは至難であるが、今までの取り組みを最大限尊重し、どれがベストか議論し、取捨選択して方向を出していく。

福祉・健康

市内では介護施設入所を待っている方が多数いる。みんながそういう施設に入って介護を受ける権利があると思う。できるだけ早く解決してほしい。また、健康増進施策をお願いしたい。

施設入所待機者は200人ほどで全員が施設に入るのには難しい。在宅でも同じサービスが受けられるようなシステムづくりを1日も早く作り上げたい。

介護、医療、いずれも対処療法的なことよりも健康づくりの方がはるかに投資が少なくて済む。これからの方向は市民の皆さんの健康づくりに集中して取り組んでいきたい。

コミュニティバスの運行のことあるごにお願いしている。福祉タクシーは事前に申し込みが必要で、利用が難しい場合がある。

路線バス、福祉バス・タクシー、スクールバスなど住民の交通手段確保の方法を一元的にまとめて、コミュニティバスとして検討している。協議会を発足して具体的検討に入っている。平成19年1月に本格的に試行するよう進めている。

敬老会がなくなった。敬老のお祝いや市民に対する賞など、せっかくお金を使うならもっとあたたかい心で市民の側に立って考えてほしい。

敬老会の件は、合併協議の際に老人会をはじめ関係者協議の中で、敬老の意を表す意味で敬老会、金品を支給する事業はできるだけ廃止することになった。考え方を変えてきたのが実態である。お年寄

りが安心して暮らせる社会全体の仕組みをつくっていくところこそが本来の姿であるので、お祝いにお金を使うより、仕組みづくりをしつかりしようという選択をした。ご協力をお願いしたい。

和田山病院の眼科の診察は週2回の診察で混雑する。バスで行くと遅くなり昼のバスに間に合わなくなる。

病院に働きかけ、可能な限り改善できるものは改善する努力をしたい。

病院は医師不足である。新任医師の研修が制度化され、従前は大学から研修医を派遣してもらい、安定した診療体制をとっていたが、近年、傾向として開業と大都市勤務希望の医師が多く、大学病院にも医師が集まらない状況で、研修医を大病院が引き上げている。豊岡病院組合の病院は同じ状況であり、全国的にも同じ傾向である。県への陳情もしているが、早速には解決しない。可能な限り改善に努めたい。

農林業

森の活性化を考えていただ

きたい。よりよい森作りを提案したい。

80%を超える人工林化は一方で自然環境を阻害している要素もある。風倒木の被害を受けたところではパッチワークのように針葉樹と広葉樹を交互に植林していく新しい山作りが始まる。針葉樹、広葉樹がエネルギーに転化できるような時代が目前に来ており、新しいエネルギー政策にも注目しながら進めていく必要がある。

農業に対する危機感を感じる。このままでは農地の荒廃が進み、だんだん住みにくいまちになる。農業委員会、農協、行政がプロジェクトを組んで、これからの農業はどうあるべきか目標を定め、各地区に入って積極的にこうしなければならぬと示し、農業、農地、景観を守り、住みよいまちを守ってほしい。

食料・農業・農村基本法の改正もあり、日本の農業の方向性を示されつつある。食料自給率は40%を割り込む状況。自給率を上げることが大きな目標である。手法として、担

手や集落営農での大型化の

振興策に集中する方向性が示されている。

中山間地域の農業は農地を守る事が難しい情勢。関係者が英知を集めて、農地を守っていかねばならない。これに対応するシステムづくりが必要である。

21世紀の農業は違った意味で注目される。世界の食糧事情は逼迫してくる。日本も国際的な農業の連携を確保し、なおかつ自給率を高めないと生き残れない。総合計画の中で意見を反映し計画づくりを進めたい。

高齢化で田んぼをつくる人がいない。市として方針はグループ等に援助するようなことを全市的に考えて欲しい。

農業政策は市として重要な位置付け。農業者が明るくないとまちは明るくならない。朝来の岩津ねぎはようやく全市的になってきた。高収益の農業である。有機農法への

転換で新しい農業の展開が全国的になっている。市でも堆肥センターの整備を進めている。地域にとって農業は重要な産業として強化していく。東南アジア全体が食料輸入国に転換しつつある。有機農